

前作『普通に生きる～自立をめざして～』では、「どんなに重い障害を持っていても、本人もその家族も普通に生きる」という理念のもと、重症心身障害児・者と呼ばれる人たちの家族で起ち上げた社会福祉法人が、静岡県富士市と富士宮市にふたつの通所施設（生活介護事業所）〈でら～と〉と〈らぼ～と〉を開所させる五年間を追いました。

法制度の改革の波に揉まれつつも「福祉の受け手から担い手となる」発想で行政に働きかけて、理事である親たちは、自分たちのニーズに合った制度やサービスをつくりあげてゆきました。

続編となる本作『普通に死ぬ～いのちの自立～』は、その後、グループホームの開所や、設立十年を迎えて次第に変わりゆく運営方針や、3つ目の事業所建設という流れの中で、年齢を重ねてゆく本人とその家族を八年にわた

って撮影しました。その途中、「医療的ケア」を必要とする人の、在宅生活の中心的ケアラーであった母親が病に倒れます。残された子の母亡き後の地域生活…そこには厳しい現実がありました。

なぜ、医療的ケアが必要だと、「地域で生きる」ことが難しいのか。なぜこの人たちの生活や人生を社会が障害することになってしまうのか…。

映画は厳しい現実を見据えつつ、後半、家族と支援者、医療者の葛藤や気付きを物語の軸に、兵庫県へと、希望を探して旅に出ます。

そこには、伊丹市で〈しゅあーど〉を率いる李国本修慈さんと、西宮市で〈青葉園〉を率いる清水明彦さんらの重ねてきた地道な活動がありました。軽快でしなやかで、しかしとても健やかに人生を賭けて、真正面から繰り広げられている「一緒に生き合う」取り組みがありました。

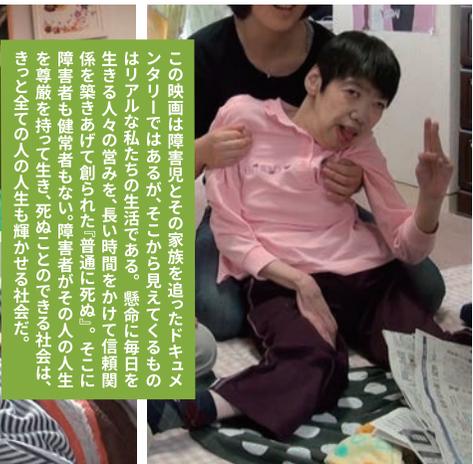
# 普通に死ぬ

生きて、生きて、生きて、普通に生きて

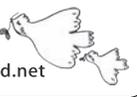
いのちの自立

ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編

公式サイト <https://www.motherbird.net/ikiru2>



この映画は障害児とその家族を追ったドキュメンタリーではあるが、そこから見えてくるものはリアルな私たちの生活である。懸命に毎日を生きている人々の営みを、長い時間をかけて信頼関係を築きあげて創られた「普通に死ぬ」。そこに障害者も健常者もない。障害者がその人の人生を尊厳を持って生き、死ぬことのできる社会は、きつと全くの人の人生も輝かせる社会だ。

『あいち国際女性映画祭2020』招待上映作品  
 ■ この著作の配給・ご購入等に関するお問合せは ■ マザーバード ■ motherbird   
 ■ TEL & FAX : 03-6913-5591 / E-mail : office@motherbird.net ■ <https://www.motherbird.net>

監督紹介 貞末麻哉子 -Mayako Sadasue-  
 '88年公開の劇映画『ゴンドラ』（伊藤智生監督）で本篇プロデュースデビュー。'92年からドキュメンタリー制作に現場を移し、多数のドキュメンタリー映画を制作。'01年に設立したマザーバードでの本作が最新作。  
<https://www.motherbird.net/maya>



前作『普通に生きる～自立をめざして～』について  
 マザーバード制作の前作は、'06年秋に撮影を始め、東日本震災直後の6月に産声を上げた。富士宮イオンシネマでの地元先行封切を経て、東京、横浜・大阪・名古屋等で劇場公開。その後は、全国各地300ヶ所以上で自主上映会が行われている。  
<https://www.motherbird.net/ikiru> **DVD 販売中!**

## 地域啓発研修会「普通に死ぬ～いのちの自立～」上映会

2026年 **3月5日(木)** 開場 13時00分 開映 13時30分  
**笛吹市石和図書館 2階 視聴覚ホール** 住所：山梨県笛吹市石和町広瀬626-1  
 ※聴覚障害者用字幕付(バリアフリー版)による上映となります

主催：笛吹市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センターふえふき / 協力：笛吹市、笛吹市障害児者家族会、笛吹市自立支援協議会当事者・家族部会  
 連絡先：笛吹市社会福祉協議会 障害者地域活動支援センターふえふき  
 TEL: 0553-34-8080 / E-mail: shien08@fuefuki-shakyo.or.jp **入場無料(定員100名)** ※左記連絡先までお申し込みください。